

7月28日(木) 11:45~ CP赤 GK緑

プレジデントカップ 17-18位決定戦

日本 32 (16-10, 14-11) 31 アルゼンチン

(戦評)

プレジデントカップ,17-18位決定戦の相手はアルゼンチン。日本はLW吉岡,LB並木,CB行本,RB金城,RW中山,PV澤田,GK榎でスタート。先にペースをつかんだのはアルゼンチン。開始からゴールエリアラインに近い場所で得点を重ねられる。しかし日本もNo.15金城,No.14中山のシュートで追撃し,7分にはNo.8並木のシュートで4-4の同点にする。そこからは日本が抜け出す。No.5吉岡,No.8並木,No.14中山が次々にシュートを決めていき,点差を広げる。アルゼンチンは日本が6-4とリードしたところでタイムアウトを取るが,日本の攻撃は止まらない。No.1榎のセーブもあり,17分すぎには14-7と7点差をつけ,アルゼンチンを突き放す。ここでアルゼンチンは2回目のタイムアウト。ここからは徐々にアルゼンチンが盛り返し,日本の攻撃も停滞するが,要所でNo.1榎のセーブが光り,前半を18-14で折り返す。

後半に入ると,アルゼンチンはさらに粘りを見せる。後半開始5分でNo.4浜,No.14中山がシュートを決めるが,アルゼンチンも7人攻撃などを活かし,ポストシュートやカットインなど,前半に点が取れていたプレーを使い,確実にシュートを決めてくる。日本はシュートミスなどがあるものの,No.5吉岡,No.8並木らがオフェンスでシュートを決め,取られても取り返す姿勢を崩さない。No.15金城の7mTで12分すぎに25-20と5点差をつけるが,ここからアルゼンチンが猛追する。17分までに25-24と1点差まで詰め寄られる。追いつかせまいと,日本はNo.4浜,No.8並木のシュートで再び突き放そうとするが,アルゼンチンの攻撃に流れがきている。24分にはついに28-28の同点にされてしまう。しかしその後,No.5吉岡がシュートを決め,逆転を許さず,追わせる展開に持ち込む。なおも粘るアルゼンチンに苦しむ中,残り30秒でアルゼンチンのシュートが決まり,31-31,再び同点にされる。ここで日本はタイムアウトを取る。残り14秒。最後のオフェンスの確認をする。そしてタイムアウト明け,クロスから大きく回り込んだNo.14中山が残り2秒でシュートをねじ込み,32-31。日本はアルゼンチンに勝利する。

この大会を17位で終えた日本。このチームはここで解散になるが,この17位を次はどう繋げられるかが大切だろう。

なお,この試合の優秀選手として,No.14中山が選ばれた。

(個人得点)

10点 中山,9点 吉岡,6点 並木,3点 浜・金城,1点 行本